

父の日 息子は王者に

東洋太平洋Sバンタム級・大橋弘政選手

21日は父の日。名古屋市のプロボクサー大橋弘政選手(29)は前夜のうちに父・啓造さん(60)への手紙を書き上げ、プロ10年目で初の



涙声で感謝の手紙

タイトルマッチに臨んだ。「勝つたらリングで読み上げよう」。新王者のベルトが、父の日のプレゼントになった。



名古屋市の愛知県産業貿易館で開かれた東洋太平洋スーパーバンタム級タイトルマッチ。王者のロ

リー松下選手(25)は世界5位にランクされる強豪だ。1回にパンチをもらい、右目が見えなくなるハ

ンデイも早々に負った。しかし7回、マットにひざをついたのはロリー選手の方。「接近

戦に持ち込めば、見えなくても当たる」と打たれても前に出続けた大橋選手の執念が王者の心を折った。逆転KO、新王者誕生だ。写

真上。殴られて変形し、血と汗と涙でぐしゃぐしゃになった顔で、大橋選手は用意した手紙を読み始

めた。同下。3歳で母と死別して以来、男手一つで育ててくれた父への謝辞だ。

鉄工所を営み家事もする。家業を継げとも言わず「好きなことやれ」と、なかなか芽の出なかったボクシングを続けさせてくれた。世界一のオヤジです……。

という内容だったらしい。実際には感極まった涙声で場内ではほとんど聞き取れなかった。「手紙は後で手渡します。オヤジにベルトを巻いてやります」

啓造さんは「立つのが精いっばいで、よく聞こえなかったわ」と息子に笑いかけた。